

外国人の未就学児に
愛知・蟹江で日本語指導

かわさき なおこ
川崎 直子さん



親の出稼ぎなどで来日する外国人の就学前の子どもたちに日本語などを教える「プレスクール」を愛知県蟹江町の保育所で、ボランティアで行っている。製造業が盛んな同県には日本語指導が必要な外国人の児童生徒は、全国最多の約六千人。その支援の重要性に気づき、二〇〇八年から続ける。

愛知産業大短大准教授で、言語

習得が専門。結婚を機に移住した蟹江町で、外国人の小中学生に日

この人

本語を教えるうちに、小学校低学年で習うはずの漢字が書けなかったり、算数の九九を覚えていなかったりする子が大勢いることに気付いた。「入学後では支援が遅い」と感じた。

知人と団体を立ち上げて、町内の保育所で指導を始めた。「スムーズに学校生活を送れるようにしたい」。教材を一から作り、指導法も考えた。今では「蟹江町モデル」として知られるようになり、東京などから視察が訪れる。

仕事がある中、ボランティア活動に情熱を注げる裏には、自身の米国留学体験がある。「日本を一步出ると自分も外国人だった。現地で多くの人に助けられた。今彼らを助けるのはその時の恩返しのようなもの」

(酒井博章)

外国人の子供、学校になじむには

日本語習得
まず親から

愛知県はこのほど、小学校入学前の子供を持つ外国人保護者向けに日本語教室を始めた。外国人の子供が学校で過ごすやすくするためには親への支援も欠かせないとの判断だ。背景には、県内で製造業を支える外国人が増えるなか、その子供たちに早く日本の学校になじんでもらい、将来的にはものづくりの担い手として活躍してほしいとの考えがある。



外国人保護者らが悩みや不安を共有し、相談できる場所を提供している(愛知県豊田市)

愛知県など教室始める

外国人児童6割
日本語指導必要

愛知県内

愛知県に住む外国人は08年には最多の22万8千人を記録したが、リーマン・ショックの影響で、12年に19万6千人まで減少。その後の緩やかな景気回復を受けて増加に転じ、15年末時点で20万9千人となっている。

文部科学省によると、

「宿題を教えられる自信がない」「いじめられたら誰に相談すればいいのか」。愛知県豊田市の市民活動センターで9月中旬、NPO法人トルシータ(同県岡崎市)が県の委託を受けた日本語教室を初めて開いた。ブラジルやフィリピン出身の7人が子供の悩みなどを母

国語と日本語を織り交ぜて話し合っていた。

この教室では、日本語だけでなく、子供の学校生活に不安を抱く外国人に、運動会やPTA活動など日本の学校行事について説明する。通訳がいて、子供を遊ばせるスペースもある。トルシータの伊東浄江代表(59)

14年5月時点で、愛知県内の外国人の児童生徒は約1万人。その約61%に当たる6373人が日本語の指導が必要という。愛知県は全国で最も多く、中部3県合計(9469人)では全国の3割強を占める。人数は学校側の申告によるもので、日本語がほとんど分からず、授業の理解に支障が出ている可能性がある児童生徒もいるという。

は「細かいことほど周囲に相談しづらい。ここを外国人保護者が何でも相談できる場所として活用してほしい」と話す。

愛知県は豊橋や知立など、外国人児童が多い4市で5つの教室を開く。運営はNPO法人に委託し、県は教材費などを負担する。受講できるのは夫婦とも外国人か、一方が外国人の夫婦とその子供だ。

中部3県では近年、外国人永住者が増加している。一方、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2010年に3県合計で728万人だった生産年齢(15〜64歳)人口が、40年には555万人まで減る。愛知県は「外国人も含めた産業の担い手を育てる重要性が増している」として、日本語習得を支援している。

話せる指導員を派遣している。

第2言語の習得に詳しい愛知産業大学短期大学の川崎直子准教授は「授業の日本語が理解できないことで、子供が不登校になる可能性もある。保護者にとっても、日本の学校行事や文化には理解しづらいものも多く、事前の丁寧な情報提供が不可欠だ」と指摘する。